第３回（仮称）町田市里山環境活用保全計画策定検討委員会　議事要旨

【会議日時及び場所】

日時　２０２１年１０月１８日（月）１０時～１２時

場所　町田市役所　２階　会議室２－１

【出席者】（敬称略）

■委員

図司　直也（委員長）、寺田　徹（副委員長）、大谷　賢二、狩野　真功、花形　亮一、斎藤　広志、田中　英夫、中丸　康明、山崎　凱史、伊藤　亨、坂本　愛、新倉　敏和

■事務局

守田北部・農政担当部長、粕川農業振興課北部・里山担当課長、牛腸担当課長、田村担当係長、喜多担当係長、浅場主任

■傍聴者

０人

【資料】

次第

第２回策定検討委員会での主な意見について（資料１）

「（仮称）町田市里山環境活用保全計画」の計画（案）について（資料２）

エリアごとの現状と課題（資料３）

計画の構成（資料４）

【議事要旨】

・事務局から計画案を説明した。

・質疑応答及び意見交換を行った。

１　開会

・経済観光部農業振興課北部・里山担当課長からあいさつ

２　議事

「（仮称）町田市里山環境活用保全計画」の計画（案）について（相原エリア）

①委員　地域の現状については、資料に記載しているとおりで良い。当該エリアは、南斜面の山が東西に約７ｋｍある。この山からの湧き水を利用して、ホタルが見える街づくりをしたい。また、南斜面の山には、みかんや柿が収穫できる小さな農園ができたら良い。その農園では、地域の人が果樹のもぎ取り体験をしたり、お茶を飲んだり、釣りができる場所があると良い。

相原駅周辺も、利用者が少ないことが影響かわからないが、人口も少なくなっている。橋本駅周辺に人が流れている様子である。昔は相原駅周辺の方が、橋本駅周辺より栄えていた。用途地域という制限と非農家の方が多いことが要因で、街づくりは進んでいない。もしよければ、市で街づくりの一環として、病院やスポーツ施設等を建設してほしい。駅の近くに施設があれば、市内からも来やすいのではないか。相原エリアに住む人にとって、成瀬にあるスポーツ施設を利用するには遠すぎる。病院も少なく不便であり、病気があると八王子や相模原の病院を紹介される。このように、市内でも地域格差がある。

里山の魅力を発信する一つとして、八王子、相模原と連携しながら、ハイキングコースをつくると良いかもしれない。境川から大地沢や高尾山の方までのコースや城山湖周辺を巡るコースも考えられる。

町田街道から北側の約５０～１００ｍが、市街化区域と市街化調整区域で区別されてい

	る。里山には影響しない程度に、安全や地域活性化を目的に、住宅をつくっても良いのではないか。 相原エリアにもブルーベリー園がある。相原エリアの里山では、果樹の栽培や紅葉狩り等、色んなことができると思っている。
②事務局	相原エリアには多くの資源がある。そのため、一つ一つの資源をつなげていくことが必要である。また、多くの活動団体もいる。今後はモノとヒトのつながりを作れたら良いなと思っている。 リーディングプロジェクトの通り、活動団体の体制づくりと体制の中で生まれてきた新しいものが定着していければ良い。地域と一緒に進めていけたら良いと思っている。
③委員長	自治体間連携した散策コースをつくっても良いのではないか。ハード事業については、関係部署につないでほしい。
「(仮称) 町田市里山環境活用保全計画」の計画（案）について（三輪エリア）	
①委員	現状については、資料に記載しているとおりで良い。横浜の寺家ふるさと村、歴史や文化遺産も三輪エリアにはある。市の施設であるビジターセンター、病院、幼稚園、短期大学もある。市街化調整区域内の緑地に施設が建設できると、里山の活用の幅が広がるかもしれない。 交通網に関しては、三輪緑山については鶴川駅からのバスが充実している。その影響を受けて、昔からのバスの本数が減ってしまった。短期大学の学生は、三輪緑山から歩いていける。 三輪エリアは飛び地に近い状態であるため、行政の関係で街づくりも難しいところもある。 道路については、三輪の住居があるエリアと寺家ふるさと村の間に未整備の道路区間があり、今後その区間の道路整備はどのようにしていく予定なのか。 リーディングプロジェクトや今後のビジョンについては、こちらで良いのではないか。自然を残して、稲作や炭づくりをしてもらいながら、新たに山にも手が入ると、散策路の整備にもつながり、より一層環境が良くなるのではないか。幼稚園等ではある程度、山を管理しているが、ビジターセンター辺りの山については管理が行き届いていない印象である。
②事務局	横浜市の寺家ふるさとの村や川崎市の岡上地域との連携が鍵となるため、今後は連携していきたい。三輪地域は多くの団体が活動しており、市も把握する必要があるため、団体とは関係を築いていきたい。 市街化調整区域内でも一定の条件の中では、病院や学校などの施設を建設できる。 現在は、大学、幼稚園、地域がうまく連携しながら山の管理をしている。基本的には既存の団体との連携をしていきたい。新たに団体ができたら、その団体とも関係を築いていきたい。
③委員	産業廃棄物が捨てられるような場所の土地を相続する可能性がある方から相談があった。里山のことを考えるときに、市もこういう出来事があることを知ってほしい。

④委員長	相続の問題についても大事なテーマをなる。 以前、横浜市から寺家ふるさとの村について相談を受けたことがあった。横浜市も町田市の緑地行政について、関心を抱いている様子であった。近隣の自治体との連携は大切となる。寺家ふるさとの村でも、世代交代に苦慮しているとの声を聞いている。また、非農家の方が増えてきており、今後どのようにしていくのか課題となっている。そのため、地域の方のつながりも行政が入って、一体的に考えていけると良いのではないか。
⑤委員	寺家ふるさとの村辺りに田を所有している人から、暗渠排水が劣化した結果、沼状態となり、機械が入らずに困っているとの声も聞いている。
⑥委員長	そのような問題についても、うまくこの計画に反映できたら良いと思っている。
「（仮称）町田市里山環境活用保全計画」の計画（案）について（小野路エリア）	
①委員	地区ごとに、リーディングプロジェクトを行うことは素晴らしい。リーディングプロジェクトについては、住民や地域外において情報共有をどのようにするのが課題である。町内会に加入している世帯は２０００世帯中、５００世帯を切っている。地域が広く、横のつながりも薄くなってきているため、どのように周知していくのか考える必要がある。 また、小野路外の方が訪れたり、知ってもらったりすることが必要である。 地域の資源については、里山交流館を始めとして素晴らしいものがあるが、知らない人がほとんどである。地域内でも周知して共有することが必要である。散策コースの整備について、対象者は外から来る人であると想定されるが、そのための、駐車場整備や駅からのルートを検討する必要がある。具体的な事業については、協力してやっていきたい。
②委員	小野路エリアに２８年住んでいる。歴史的な背景もあり、家長の意見は大事とされている。そのため、新しい意見を持っていっても、中々受け入れてもらえない。里山交流館ができて８年が経過し、周辺の方とは話ができる関係になりつつある。小野路宿通り周辺では関係性が構築できてきたが、それ以外の地域とはまだ関係性が弱い状態である。 小野路宿通りでは、道路が拡幅されたが、交通量が増加されたことによる安全性の課題もある。 リーディングプロジェクトの進め方についてであるが、地域の方からも理解を得ている里山交流館をうまく利用した方がよい。地域の方は、放置竹林の改善を望んでいる。小野路宿通り側と万松寺側、両方から見て景色が良い里山を目指していければ、地域の住環境の向上にもつながる。 散策路については、ただ作るだけでは面白味がない。地域の方が納得して散策路をつくることは欠かせない。このようなプロセスを得ることで、協力してくれることもある。竹林の中に竹の細道をつくることが夢である。手が入らない竹林が少しでも変われば、地元の人からも賛同が得られる。 里山交流館では、以前はお茶の木を畑や門に植えているだけで、活用されていなかったが、最近では、里山茶をつくるようにしている。小野路には自然のものを多く使った製品をつくっていきたいと思っている。また、お茶積みのイベントを企画すると、多くの方が参加してくれる。 竹林では、竹の子とメンマの活用を考えていきたい。

	１番大切なことはお金を生み出すことである。小野路の竹林で里山体験することでもお金はつくれる。 小野路は広いため、色んな問題があるが、解決していきたい。人の目が入れば、不法投棄等、解決できることもある。 何か事業を行うにも、小野路には空き地がないため、広く使えるところがあれば良い。消化できるスペースがないため、市の土地をつかって、計画を具体的に進めていきたい。
③事務局	リーディングプロジェクトをつくっただけでは意味がない。プロジェクトそのものを知ってもらうことが必要。そのため、戦略的にＳＮＳ等を使って、ピンポイントで発信していきたい。 お金を生みだすことが必要。お金がないと持続性にはつながらない。広域ビジネス、スモールビジネスなどが考えられる。大きな資本にも参入してもらえるよう、市も営業する必要があると考えている。里山の再生や活用する際のスペースについては、現状、里山交流館の敷地では余裕がないため、市が持っている小野路公会堂の横の土地等を使って、地元の人と協働で進めていきたい。
④委員	小野路が羨ましい。北部丘陵地域では、都市計画道路３本を多摩ニュータウンができるまでにつくる約束をしていた。小野路では、鎌倉街道ができた。小山田では、３・４・４０号線等、町田と多摩ニュータウンをつなぐ道路の計画があった。小山田地域の道路については、一部は着手したが、全体としては進まない。小山田では、小山田小の前面道路（都道１５５号線）の整備は、都市計画道路３・４・４０号線が整備予定であるという理由で進んでいない。小野路は、宿通りの整備が行われ、都市計画道路３・４・２２号線も整備される。小山田は進んでいないので羨ましい。都市計画道路があれば、小野路宿通りの通行も少なくなり、より良い場所となる。なぜこちらの計画の中で、議論されていないのが不思議である。
⑤事務局	意見として受け止める。
⑥副委員長	２０１３年に里山交流館ができて、外と内をつなぐ役割となっている。新しいプロジェクトを推進していく際も、里山交流館の役割は期待される。小野路のリーディングプロジェクトが増えることになるが、里山交流館をプロジェクト推進拠点とすることや持続可能な運営の見直しを行うことを位置付けても良いかもしれない。
⑦委員	余力がないので、プロジェクトとして入れることは難しい。
⑧委員長	現状認識のところで、里山交流館の役割について記載しても良いかもしれない。 メンマやお茶の話についても、全国を巡る中で、資源として捉えているところが多い。お茶をツーリズムとして、どのようにつなげるのかも鍵となるのではないか。 町内会の会員が少なくなってきているとのことであるが、地域内交流や世代間交流の場として、里山交流館や里山を活用しても良いのでないか。 また、人の目が入ることで、地域の気運も上がることが考えられる。今後のビジョンの狙い目として、このような視点を入れても良いのではないか。

「（仮称）町田市里山環境活用保全計画」の計画（案）について（小山田エリア）

①委員　地域の課題のところであるが、住民の日常生活の利便性、安全性の向上が掲げられている。もう少し表現をストレートに取り上げてほしい。実際は大部分が市街化調整区域であるので里山が残ったということである。これは、市街化調整区域のプラスの面である。しかし、マイナスの面として土地利用が自由にできないことが上げられる。そのことが、住民にとって最大限に不便であり、不満なことである。ほとんどの住民がそのように思っているので、この計画をつくりそのことが記載されていないと、外に出したときにこの内容では地域に認められない。課題のところで、市街化調整区域により、土地利用に制限があるというような表現で記載してもらえると良いと思う。
リーディングプロジェクトについては、１番目の、拠点の整備については、大変ありがたい。このような施設があれば、地域内でも顔を知らない人がいるので、地域内交流ができる。また、来訪者にとっても良いことである。
このような施設ができることで、小野路宿里山交流館、小山田緑地、小山田の蓮田、鶴見川源流保水の森が線となりつながる。里山を散歩できる線があると良い。
２番目、３番目については、昔、ドイツに旅行した際に、街の中にかなりの数の畑があり、クラインガルテンとして使われていた。相当な数があり、市民が耕している様子を見た。このような仕組みが町田市でも導入できたら良い。そのためには、地権者にもお金が入るようにすることが必要である。

②事務局　市街化調整区域はプラスの面以外のものもあるので、しっかり記載する必要がある。
拠点施設については、現状、小野路宿里山交流館が点として存在しているため、小山田にも施設ができれば、北部丘陵エリアが横につながり、よりお客さんが楽しめるようになる。滞在時間が増えれば、その分、地域にもお金が落ちるチャンスが増える。そのため、拠点施設の建設は進めていきたい。具体的な施設の内容については、小野路宿里山交流館を建設した際はかなりの時間をかけて、地元の中やあるいは地元と市で意見交換を行ったので、その辺りはしっかり進めていきたい。

③委員　資料の内容については、こちらで良い。拠点施設を建設するということであるが、ハード整備は早くすることが必要である。遅れるほど経費や関係者が入り、うまくいかなくなる。この地域では、１２～１３年進んでいないため、地域に諦めムードが高まっている。何か一つでも始めなければならない。
何か一つ事業を進めるにしても、お金がないとできない。お金を使う際に、何年後に元が取れるのかを見据えることが必要である。市もそういう考えを持ち進めていかなければならない。例えば、新幹線は約１０兆円の事業でも反対する人がいる。しかし、何年後に元が取れるか事業計画をつくり進めている。小さいことでも良いので、事業計画をつくって、早く動いてほしい。

④事務局　行政の財源が厳しいのは変わらない。だから、何もしないというわけではなく、事業計画をつくり、早く動けるように、地域と意見交換しながら進めていきたい。

⑤委員長	目に見える何か動きを見せることが必要である。また、スピード感を持って進めることが必要である。
⑥委員	市街化調整区域の問題を外すことはできない。昭和４５年に線引きが行われた。 （仮称）都市づくりのマスタープランのパブリックコメントに意見を出したが、当初の昭和４５年の時の約束が無視されている。その約束を前提に市街化調整区域のことを計画しないと意味がない。 以前他の委員が発言していたように、小山田には里山がない。資料の中で、小山田地域の現状として、農地も多く、里山の原風景を今に残す自然環境豊かな地域です。と記載されているが、実際は異なる。 以前は、里山に住む方みんなが農業従事者であった。そのため、山の傾斜地も畑として使われていたが、今は状況が異なる。里山を戻すことは考えられない。 線引きを行い、良い農地の多くは市街化区域にある。国は市街化区域に農地はいらないという方針であったため、宅地並みに課税をしていた。約束では、市街化調整区域から市街化区域になるべく早く変更するという約束であった。 この地域を考えるにあたり、区画整理事業は必要である。都市計画の中で、２０ｈａの秩序ある整備なら認められるということである。法律に基づき、市の汚水処理施設をつくることを前提に三輪緑山は特別に実施された。本来であれば、２０ｈａ以上の土地があればどこでも区画整理事業は許可するはずであった。そのため、小山田地区にも、５つのほどの準備組合ができた。市街化調整区域の中でも、区画整理事業ができるはずであったが、市や都が反対してできなかった。 最終的に旧住宅都市整備公団が対象地の３割の土地を購入し、区画整理事業を行う予定であったが、国の方針により中止した。現状では、里山は荒廃している状態である。 里山の現状であるが、良い里山は残っていない。里山を残すのは無理である。里山を残すにはみんなで農業をしなければ成り立たない。 市民、都民、国民がなるべく手をかけないで、自然の山をきれいに残すことについては、良い場所になるので賛成である。 里山にこだわる場合は、農家をやることが前提であるため、里山の管理はできない。そのことを無視した内容がこの計画には書かれている。 この地域の中で一部の人が良い思いをしている。多くの人が良い思いをしなければならない。北部丘陵地域には多くの市有地があるため、まずは、所有している山をきれいにして、見本を見せる必要がある。また、ボランティアで一部の山林を保全するのではなく、全体をどのようにするか考えたほうが良い。 小山田中部街づくり協議会のエリアには、小山田緑地がある。そこには、大泉寺というお寺が約１０ｈａある。ゴルフ場は、４０～５０ｈａある。小山田緑地は１５０ｈａあるが、大泉寺とゴルフ場の土地を除くと、点在している。多摩ニュータウンをつくるときに、ゴルフ場は全体で２７ホールあったが、その内１８ホールは多摩ニュータウン内にあったため、１８ホールは区画整理事業として、東京都が取得した。その結果、ゴルフ場が１８ホールなくなり、残りの９ホールでは営業できなくなった。 そのため、小山田地域の市街化調整区域で、小山田緑地でなおかつ、大部分が風致地区の場所に、追加で９ホールつくった経過もある。小山田緑地内の土地をゴルフ場として購入することは一般的にはできない。

	ゴルフ場や大泉寺は緑地の区域から外して、周辺の土地を国や都の緑地施策の中で購入することで、将来的に公有地として残るのではないか。小さいことをやるのは良いが、それでは地域の解決にはつながらない。 小田急線やモノレールの延伸、小山田周辺街づくり構想があるが、（仮称）都市づくりのマスタープランに入っているかわからない。特に、今までの北部丘陵活性化計画ではインフラ整備を含めていた。農業振興課では街づくりができない。以前、委員長もそのように言っていた。 今この計画に書いてあることについては不満であり、もっと地域の言うことを聞く必要がある。この計画については、全部反対である。 当初は３回でこの計画をつくるということであった。はじめと終わりを除けば、実質１回である。それで、この計画をつくることはおかしい。意見が通らないため、本当は委員をやめたい。これについては、最後のまとめのときに、委員を辞職しようと思っている。 それについては、協議会の代表として、来ているので、協議会の了解を得たいと個人的な意見としてある。委員としてこの計画に関わっていたということにはしたくない。 小山田エリアで現状についても、農地も多く、里山の原風景を今に残す、自然環境豊かな地域ですと記載している。冗談ではないか。 何回言っても、このように記載している。小山田についてのリーディングプロジェクトについても、何の役にもたたないと私は思う。 農業振興課がやるために、街づくりから逃げている。（仮称）都市づくりのマスタープランにも記載していない。 小山田駅周辺街づくり構想についても、何も触れていない。その経過を理解した上でないと、この計画はつくれない。 ２０１６年には活性化計画を見直すと市長が上小山田町内会長に約束している。それを急に、大事なところをなしに、里山の計画をつくることについて、本当は出たくなかった。しかし、出ないとまずいため出てきた。それが、結果として、そのようにまとめるのであれば私は辞めます。
⑦委員	活性化計画の見直しについては、町内会が動かないのも問題があったのではないか。インフラの整備などは、都市政策課の中で議論した方がよい。
⑧委員	以前はその議論は北部丘陵整備課でできた。農業振興課が街づくりを行うのはおかしい。ここで初めて、都市政策課の管轄になった。しかし、その（仮称）都市づくりのマスタープランの中では無視されている。そのため、地域の要望をこの計画に入れてほしい。以前、配布された地域住民の意識調査の資料で、地域住民からの自由記述もあった。意識調査の結果はこの計画案のどこに反映されているのか。
⑨委員長	里山のところに関しては、Ｐ３の定義のところで指摘がある。Ｐ１１が現状としての表記となっている。分けてあるところが良い悪いについて検討する必要があるが、Ｐ１１のところに当然、生活の様子や歴史的な経過も含めて、大分変化していて、以前委員から指摘があったように、里山がないという表現まではしきれていない。変化はしているとの表記はしている。 この部分の表記の仕方や分けて書いてあることについて、ご意見をいただければと思って

	いる。
⑩委員	高齢化で農業ができなくなっているのではない。あの地域では農業で食べていけないから子どもたちがやっていない。農業では生活ができない。
⑪委員長	整理して、記載内容等については修正してきたい。 Ｐ２９の町田市全体の取組についての議論ができていないため。取組としては、各地域の取り組みとＰ２９の全体の話を組み合わせるかたちとなっている。この部分で、先ほどの内容も含めて、修正が必要であれば、ご意見をいただけたらと思っている。先ほどエリアの話を先に出したので、こちらの議論があとになっているが、そういう整理となっている。 （仮称）都市づくりのマスタープランとの関係は、前回の議論としては、この場では扱いきれないということで決まった。いただいた意見については、直接整理はできないところもある。そこは、事務局と都市計画の部署で整理したほうがよい。
⑫事務局	里山はないとの意見があったが、かつての里山のようなものはないと思われる。ただ、近づいている部分はあるように思える。例えば、奈良ばい谷戸とか町田市全体ではそういう部分があるので、そういうところは磨いていく。かつては、地元の方が農業中心で里山を維持してきた。今後は、それだけでは無理ということは理解している。 そこは、なるべく外の方や企業、あるいは団体を含めて、担い手を増やしていく中で、里山全体を順次、再生していきたいと思っている。 その中でも、市が所有して、荒廃している山林については、計画に書いてあるとおり、一旦、市が整備を行う。特定の方の利益ではなく、地域全体としてどのように地域に還元できるか検討することが大切である。どのように、地域に還元していくかについては、地域の人と対話することが必要である。その中では、地域の会合には市が定期的に年数回程度伺いたいと思う。
⑬委員	資料には、里山とはについて、はっきりと明確に記載している。しかし、今回の計画名が（仮称）町田市里山環境活用保全計画であるのはおかしい。里山というものはない。現状に問題がある。しかし、ここに書いている里山はない。里山の中身を変えて、現状を記載して、その里山をどのようにしていくか記載するのであればわかる。絶対に里山は復活しない。農家の方はきれいに下草を刈って、落ち葉を掃いて、有機肥料にしていた。
⑭委員	田、畑、山林という３つの地目がある。今回は山林の活用についての議論が中心である。たしかに、里山に住む農業者は減っている。
⑮委員	資料で再生という言葉が使われている。里山を再生することが必要である。計画の中で記載されている里山は過去に遡るイメージがある。
⑯委員	里山とはいう言葉の記載は止めてほしい。以前の里山に戻すことはできない。
⑰委員長	里山の定義を定めることが必要である。
⑱副委員長	「多摩丘陵の原風景が色濃く残る」という表現は違和感がある。原風景というのはかなり

過去のことであり、当時の環境のことであったりする。その当時の里山とは大きく異なってきているが、そのため、感傷的に多摩丘陵の原風景が残っていると記載するのは過大認識がある。感傷的なものとは違うので注意するべきではないか。以前の里山のことを言っている。今回目指すものは、それとは大きく異なる。課題認識を把握する必要があるのでないか。今の荒れた里山をどのようにするのか検討した方が良い。

⑲委員　計画を検討する際も、ゾーニングすると良いのではないか。いくつかゾーニングをつくってもよい。全部里山にするのは疑問に感じる。

⑳副委員長　奈良ばい谷戸は北部丘陵の一部である。大都市直近であり、一部では多摩丘陵の原風景を再生しようとする試みがある。多摩丘陵の原風景を残しているとの表現は違うと思う。全ての里山を再生することは不可能だと思う。誤解されないような書き方をすると良いのではないか。現状を正確に記載する必要がある。
Ｐ２７、２８の基本方針の４つについて、基本方針１番に里山の魅力を伝えるときているのは、違和感がある。まずは、現状のマイナスをなくし、魅力については、環境整備してから伝える。優先順位として、環境を整えるが１番最初にきて、それから、魅力を伝えたり、体感してもらったり、何か事を起こそうとすることが最後に現れる。現状認識とも関係するが、現状はやはりマイナス面が多いところを、プラスマイナスゼロに持っていき、魅力をアップするところから、はじめるという意味でも、１番を整えるに変えて、そこから、魅力を伝えたり、体験したり、里山ではじめるほうが良い。現状認識というのは、外側から理解した感傷的な多摩丘陵の原風景ではないから、表現についてはしっかりと記載することが重要であると思う。

㉑委員長　里山の表現については大切な要素である。暮らしている方の目線と、外からの目線がズレていることについて、暮らしている方は違和感があるという意見が出ている。その表現は丁寧に練り直して、検討する必要がある。地元の委員が気にされること、言われていることも当然のことである。そのため、この場では表現について確認することは限界があるため、事務局と委員で直接やりとりしても良いのではないか。

「（仮称）町田市里山環境活用保全計画」の計画（案）について（全体）

①委員長　残りの時間については、全体の話として、計画の構成、町田市全体の取組、最後の推進体制について、ご意見をいただきたいと思う。推進体制について、事務局から説明をお願いします。

②事務局　委員より多くの課題を聞くことができた。事務局も委員の声を拾いきれていないと感じた。計画を進めるうえでは、可能な限り、これからも委員の声を聞いていきたい。
今後、様々な意見が出てくることが想定される。地域の方とは、エリアごとに、会議体のような組織と年に数回定期的に打合せを行いながら、計画を進めていきたい。
そして、年度末あたりに１回、この中の委員でいうと、学識経験者、㈱町田新産業創造センター、㈳町田市観光コンベンション協会、町田市農業協同組合の３団体で、市全体として俯瞰して見るために、推進委員会を設置したい。その委員会の中で、助言やアドバイスをいだたき、翌年度、エリアごとの会議体に伝えながら、プロジェクトを進めていきたい。

③委員長	整理すると、現場の皆様と事務局で日頃、やりとりを行う。そして、年に１回程度、学識経験者等が委員会の中で関わり、アドバイスをするような仕組みをつくる。つまり、２つの枠組みにして、地域の皆様とは常に、事務局がやりとりする形ということである。
④事務局	地域との意見交換の密度を高めていくことが、プロジェクトを進める良い方法であると思っている。
⑤委員	エリアごとに検討場所が異なる。そのため、そのエリアで、具体的な検討を行い、仕事に実際に反映しないと、後任の方を集めても何をして良いのかわからない。 今後はやれることをしっかりと順番をつけて、地域、立案者、推進者等の関係者も集まり、意見交換しながら進めていく必要がある。
⑥委員	私の会社では創業者を支援している。会社の中に、さらに様々な会社が入っている。例えば、映像制作で町田の魅力を発信したり、グリーンスローモビリティ（時速２０ｋｍ未満で公道を走ることができる電動車を活用した小さな移動サービスで、その車両も含めた総称。）を活用したりている。 グリーンスローモビリティを扱う会社では、全国各地の観光資源の活用や、交通の便が悪いところをどのようにつなげるのか等、公共交通を扱っている。今までの話の中で、駅から観光資源までどのようにつなげていくのかという話があった。この会社がこれから行うのが、東日本旅客鉄道㈱から依頼を受けて、千葉県の館山にある駅やバス停から観光客を観光地に連れていくための実証実験を行う。 例えば、計画の中でこのような実証実験をやっていく。その結果や取り組み方法を映像で周知する。あるいは、里山の再利用について、全国から再利用するためのアイデアを賞金付きで募集してみても良い。 このような取り組みをすることで、地元の方たちからプロジェクトについて、賛同を得ることができるのではないか。プロジェクトを進めていかないと、議論で終わってしまう気がする。私に言ってもらえれば、そのような会社をつなぐこともできる。 また、国の補助金についても、紹介できるかもしれない。
⑦委員長	移動の話について課題が出ていたが、バス会社にこれ以上やってもらうことは採算上難しい。 そういう意味では、グリーンスローモビリティのような電気自動車や電気バスなどで、小規模に動かしていくことが必要である。このような活用の動きはけっこう出てきている。 試しに、外から入って来る人向けと地域の方向けの双方が活用できるように、つないでいく発想をもつとよいかもしれない。
⑧委員	ちなみに、現在鶴川団地で団地と商店街とつなぐ取組がすでに実際に動いている。町田の魅力を伝えるために、このような取組があっても良いのではないか。
⑨委員	検討委員会の進め方についてであるが、小規模に集まり、議論することを考えても良いのではないか。

⑩委員長	今日は先にエリアごとに議論を行った。分けて議論するかについては検討する必要がある。共有することも大切である。次回の検討委員会の進め方は検討する必要がある。
⑪委員	パブリックコメントの後の検討委員会では、意見を言うことができるのか。
⑫事務局	パブリックコメント後の検討委員会は２月に予定しており、意見をいただくことにしている。
⑬委員長	最後に、本日欠席の学識経験者から、ご意見をいただいているようなので、事務局よりご紹介お願いします。
⑭事務局	本日欠席の学識経験者から意見をいただきましたので、紹介します。 １つ目。計画の構成について第２章の章立ては「１．町田市全体の現状と課題」、「２．エリアごとの里山の現状と課題」とした方が分かりやすい。 「２．住民・来訪者の意識」は資料編に回して、その結果から導き出される現状と課題を「町田市全体の現状と課題」、「エリアごとの里山の現状と課題」に書き込んだ方が良い。 「（３）地域住民の暮らしに関するヒアリング調査」は、例えば「かつての里山の暮らしと生業」といったタイトルでコラム的に余白スペースに掲載する方が良い。 学生もフィールドワークで訪れているようなので、若い人の里山に対する想いなどもコラム的に掲載すると過去、現在、未来というかたちで受け継いでいく流れがイメージしやすくなる。 ２つ目。記述についてＰ２里山環境活用保全計画がどの位置にあるか、ぱっと見て分からないので、字を大きくするとか、この計画だけ網掛けをするとかして、目立つようにした方がよい。Ｐ８アドベンチャーツーリズムに注釈を付けた方が良い。他にもグリーンインフラなど注釈を付けた方が良いものがある。 ３つ目。計画書の親しみやすさについて。計画の名称は多くの人たちに親しみを持ってもらえるよう、やわらかいものにした方が良い。内容も一般的な行政計画のように堅苦しくなく、イラストを入れるなどして、読んで楽しい計画に工夫したい。「那須塩原市まちづくりビジョン」が参考になる。
⑮副委員長	リーディングプロジェクトをいくつか取り上げて議論したが、計画におけるリーディングプロジェクトの位置づけについてはあまり記載がない。通常、都市計画マスタープランのような大きな計画では、実施の可能性がある事業をリストアップするという性質が強く、必ずしもその事業を進めるというものではない。 今回は、数あるやりたいことの中から、選択し、リーディングプロジェクトとして進めるものである。そのため、現状もある程度足並みが整っており、財源もある程度の算段があり、進められる可能性が高いものを５年という期限をつけて、リーディングプロジェクトとして位置付けている。 そのリーディングプロジェクトをしっかりこの計画では支えていく。 これから実施するリーディングプロジェクトの周知や実施体制等について、それぞれの地域で固めていくとよいのではないか。

⑯委員長	各エリアと全体について、意見を頂いた。里山そのものの位置づけについて、改めて確認ができた。今日は様々な意見を頂いたので、事務局で手直しや意見を反映してほしい。 また、これから地域に入り調整することになるため、地域の皆様にもご協力よろしくお願いします。 今回は、これまでの北部丘陵活性化計画とは異なり、実施していくことをかなり意識している。 次回は、修正した計画案を確認する場としていきたい。
３．その他	
①事務局	委員長ありがとうございました。また、委員の皆さまも貴重なご意見ありがとうございました。 後日、本日の議事要旨をお送りしますので、ご確認をお願いします。 なお、本日は時間の関係で、ご意見の集約ができていないかもしれません。もし、ご意見等ございましたら、後日でも構いませんので、お電話・メール・ファクス等でご連絡いただければと存じます。必要に応じて、各団体にヒアリングさせていただくこともあるかもしれませんので、ご協力のほどよろしくお願いします。 最後に、事務局から、次回の日程についてご連絡いたします。 次回、第４回策定検討委員会は２０２１年１１月１５日（月）午前１０時から正午を予定しております。また近くなりましたらご通知いたしますので、是非、ご参加をよろしくお願いいたします。 本日、計画案に関して意見をいただきましたので、次回の策定検討委員会では、修正した計画（案）について、ご意見をいただきたいと考えております。 本日は、お忙しいところ貴重なお時間をいただきありがとうございました。
４．閉会 ・事務局からあいさつ	